
初夏

真戸優太

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

初夏

【Nコード】

N7117M

【作者名】

真戸優太

【あらすじ】

「昆虫図鑑に載っているような姿のカブトムシを息子たちに見せたい」

ほのぼの父親奮闘記です。

第1章

結構な藪の中に入るから大変だけど、子どもは喜ぶぜ。

子煩悩で有名な会社の上司が僕に教えてくれたのはカブトムシやクワガタムシが生息している秘密の場所だった。

梅雨も明けきらず、常に生暖かい湿った空気が肌にまとわりつくこの季節、僕が住んでいるこの田舎町では野生のカブトムシ、クワガタムシたちが活動を始める季節でもあった。

去年までは真夜中に周りを山や畑で囲まれた農道を自家用車で走り、数十メートル間隔で道端に立っている街灯の下を探していた。古くて薄明るい山の街灯下には禍々しい羽を持つ蛾や、長い触角と強い顎をもつカミキリムシたちがまるで井戸端会議をしている主婦のように集まっている。そして運が良ければカブトムシやクワガタムシにありつけるという訳だ。僕の家では毎年そのやり方で事欠くことはなかった。

でも今年は方法を変えようと思った。街灯のやり方では真夜中に家から出るのではなかなか小さい子どもを連れて行くことが出来ないだったら、よく昆虫図鑑の中で見かける木の幹に凜としてよじ登るカブトムシ。

父親としてあのカブトムシの姿を息子たちに見せたいと思ったのだ。

第2章

上司が教えてくれた場所は僕の町では最大の川の河川敷。

僕はカブトムシたちは山にいるもんだとばかり思っていた。それが河川敷だなんてちよつとイメージが湧かない。

探すのは柳の木で、背丈より少し高いくらいだという。これもイメージと違った。僕の固い頭の中では天まで届きそうなくらいの大きい木の幹にカブトムシは生息していた。

柳の木を見つけたら、その木を軽く揺すってみる。そうすると枝や葉が落ちるのに加え、「ボタツ」と黒いものが落ちてくる。落下地点を探せば「彼ら」が。その木に「彼ら」がついているのを確認したら、後は強く揺すって取り放題。

そんな算段らしい。

もちろん、そう簡単には木も「彼ら」も見つからないらしい。藪を行き、枝を掻き分け、さながらジャングルを探索する。

それなりの準備が必要だな。

そのジャングルにはカブトムシ以外の虫ももちろん生息している訳で、なかには人の血を吸うヤツもいるかもしれない。

長袖、長ズボンだな。

木の幹についている虫や、飛んでいる虫に気をとらわれるが、足元には蛇がいるかもしれない。

長靴も必要か。

取り放題というくらい落ちてくる？

籠はもとより、段ボールも必要か？

カブトムシはいいけど、クワガタムシはあの鋭い鋏ではさんでくるか。

軍手、軍手と…

あ、でも取りすぎても飼うのが大変だな。

どんどん想像は膨らみ、「見つからないかもしれない」という伏線
はもはや僕の頭にはなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7117m/>

初夏

2010年10月12日04時15分発行